

<今日の説教のポイント ルカによる福音書9章10-17節>

不思議な現象自体ではなく、それが語りかける意味を追うことが大事。

1 (10-12) 派遣に応え(1-6)良識と思いやりある弟子たちの問題点とは。

ここに出て来る弟子たちはイエス様と同じ宣教を見事に果たして帰って来た「使徒たち」(10)です(9:1-6)。「人里離れた所(荒野)」(12)にいる大勢の人々の食を心配することは良識があり思いやりに満ちているように思えます。しかし主はそうは思われなかったのです。

2 (13-14a) イエス様は、一体、何をおっしゃりたかったのか?

「あなたが彼らに食べ物を与えなさい」(13)。イエス様の答えは弟子たちにとっては意外というより意味不明に思われました。これに対する弟子たちのイラっとしたのが伝わる答え(13b)がそれを示しています。

3 (14b-15) 神様のなさり方がある。それを信じて従う。すると。

イエス様はそれを聞いてすぐに具体的な指示を出されました。しかしそれもパン五つと魚二匹しかない中で意味不明に思われる指示でした。しかし弟子たちは従いました。何をなさるのだろうかと思守っている感じでした。すると思いもしなかった不思議なことが起こったのです。

4 (16-17) 無意味で貧しい物も、主によって豊かに用いられる。

16節の内容、すなわち、イエス様がなさった行為は4つの福音書全てが記しています。重要だからです。この姿は最後の晩餐の時に主がとられた行為(22:19)であり、エマオの村でも復活の主がとられた行為(24:30)です。それは天の神様のことを思い、神様の支配の下に自分は置かれていることを思い起こす行為であり、イエス様が十字架に掛かれたことがそのために起こして下さった神様の出来事であることを繰り返し思い起こすための行為であったのです。この時、使徒たちにして、主がどの様なお方かを忘れ(分からず)、主を思わず、良識と思いやり(ヒューマニズムの愛)だけで判断する人に戻っていたわけです。信者は自分勝手な確信を持って動くことがないように気をつけなければなりません。しかし同時に、私たちの無意味で貧しく思える物も、神様の御旨がそこにあるなら、主によって大きく豊かに用いられ、それこそ不思議に思えることすら起こるのだという確信を持って生きる者でなければ